

# 平成十九年度修士論文・卒業論文題目

## 修士論文・卒業論文題目

—住居における時間と使用用途について—

### 史学科 〈日本史専攻〉

#### 大学院文学研究科

##### 〈歴史学専攻〉

洗 裕理 エイレーネーとイコノクラスマ  
神原 郁美 古典期マヤにおける王権と儀礼  
—図像学的・碑文的解釈による—

倉重 史子 イギリス帝国とアングロ・イン  
ディアン —ユーラシアンと白人—

田辺 龍弥 戦国島津氏の権力構造と領国支配の研究 —豊臣期から幕藩制移行期を中心に—

中川 佳奈 御館の乱について —戦国期權力の中枢と在地の抵抗—

松尾 卓次 島原藩の禁教政策の研究

横部 圭美 ディオクレティアヌス帝とテト  
ラルキア —第1次テトラルキアを中心にして—

##### 〈文化財学専攻〉

石川ゆかり 九州出土経筒の総合的研究  
上原 直樹 日向型間仕切り住居の研究

角川 茂

古代・中世における青銅製文化財の产地推定 —主に鉛同位体比法を用いて—

金岡 保文

占いの今と昔 —集団から個人へ重点を置く現代の占い—

後藤 浩之

道の駅を介した地域おこしの研究 —竹田市城原地区を事例として—

朴 芝 然

環境による金属の劣化実験 —別府地域の環境が金属に及ぼす影響について—

原 彰吾

弥生時代における九州北部から出土した青銅製品の鉛同位体比と周辺部の地域相互の関係と技術理解—

平ノ内 武史

北部九州の細石器 —福岡地域

太田 陽介

戦後日本教育史の中の「日の丸」—現場の視点から—

大川 博寿

鎮西宇都宮氏の衰退 —長崎から世界へ向けて —被爆と平和運動—

大田 泰規

戦後日本教育史の中の「日の丸」—現場の視点から—

伊藤 祥

日田祇園会の研究 —その文化的価値を中心に—

植木 宏

室町時代の備中国新見荘

池田 孝高

北九州市の衰退 —八幡製鐵所を中心にして—

安倍 千恵

近世後期の皇統の変革と朝幕関係 —後桜町と光格を中心に—

石田 隆裕

島原藩における長崎警備の動向 —十九世紀を中心に—

板井 博昭

ウイリアム・アダムス、日本滞在中ににおいての疑惑

### 史学科 〈日本史専攻〉

柳 場 恩 岡田三郎助の作品をめぐる一考察  
に—

柳 場 恩 岡田三郎助の作品をめぐる一考  
察 —きもの姿の女性像を中心

折口 結花 岡本 康平 秀吉の朝鮮出兵  
お由羅騒動にいたるまでの薩摩

甲斐 裕和	政治と斎彬の襲封	橋本 謙一	戦国時代期における土佐長宗我部氏
梶川 愛弓	松永久秀について	高橋 秀明	太平洋戦争戦闘史
金丸 智洋	府内病院とアルメイダについて	竹下 徹	島原の乱
亀丸 善章	戦略爆撃と大分	武丸 健太	織田信長の生涯について
亀山 達矢	南京事件の研究	田代 清貞	日本近世城郭についての考察
川添 雅子	昭和の国境界――加藤正夫を中心	田代 洋平	大学闘争の構図――東大安田講堂事件に見るバリケード封鎖の思想――
金余辰 和也	心に――	辻 哲也	種子尾留美 大津事件の解明
黒木 智浩	本能寺の変について	長曾我部航	幕末期佐賀藩における藩政改革政策
佐藤 友紀	日本と韓国の開国	鶴澤 韶	――学政改革を中心に――
汐月 敏英	鎌倉幕府の成立と荘園制	B C 級戦犯裁判――A 級裁判には見えない横浜裁判――	永江将大郎 朝鮮出兵について――島津氏の動向とともに――
島兒 洋介	日豊本線開通史	砥綿 弘介	適塾と洪庵の教育理念
島瀧 愛	日本映画の歴史――監督を中心	中野 雄揮	征西將軍宮――懐良親王の生涯
自見 美幸	江戸時代の町人文化について	中村 達彦	戦国大名大友氏とキリスト教
白井 利幸	豊臣秀吉の朝鮮出兵について	古川 新悟	中世における荘郷鎮守について
「金子文輔従軍日誌」から見る 戊辰戦争期の各地	心に――	藤原 大士	――筑前国怡土荘を中心――
園田 健	島津義弘について	堀口 雄一	竹島問題の歴史的背景――「竹
高瀬 麻衣	加藤清正による治水・灌漑事業	前村 俊二	島の日」制定の波紋――
高橋 一仁	山本権兵衛の生涯――海軍時代	西野 貴士	内政と外交の交差――日中國交
		西村 和倫	交渉にみる――
		松浦 正徳	別府温泉の歴史と別府観光の今
		後	

松田 洋子	特攻隊の研究 —陸軍少年飛行 兵を中心にして
松本明日香	赤穂事件について
松屋 健一	関東及び阪神淡路両震災の比較
丸山 裕司	北方領土問題の起源 —第二次 世界大戦を中心に
嶺石奈緒子	細川ガラシャについて
宮城 真之	中世琉球王国の誕生と島津氏の 琉球侵攻
宮脇 祥太	本能寺の変の謎
村田 千里	愛新覚羅浩の研究 —日満のは さまで生きた人生 —
矢田 雄一	水野勝成と福山の成り立ちにつ いて
矢吹 賢一	近代スポーツ文化の形成
山口 健太	織田信長と家臣団
山口 典子	遊女の社会的地位とその変遷
山口 敬史	織田信長の経済政策
山崎 達矢	秀吉による九州平定後の城郭政 策
山田 卓也	鹿鳴館における舞踏について
山田 弘文	山本五十六 —太平洋戦争突入 期を中心にして
山田 雄之	アジア太平洋戦争期の総動員体 勢 —大分県の場合—

横田 大作	「解体新書」翻訳・刊行の要因 とその影響
吉岡優富子	加藤清正と熊本城について
和田 成弘	お雇い外国人教師としてのラフ カディオ・ハーン
渡部 秀紀	日本サッカーの軌跡 —Jリーグ の崩壊と再生—
梶原裕一郎	アレクサンドロス大王と東征 —東征を支えた王ファイリップス 二世—
阿南 希依	唐武后朝の宰相について
至ルアラモニ	日本・モンゴル交渉史 —過去 から現在に至る間—
磯村 翔平	初期墨家集団に見る墨子の思想
梅下 祐樹	斉の桓公と管仲
甲斐 康寛	4・5世紀における東アジアの 国際関係と日本の外交
岸谷祐太朗	三国、呉の家臣集団
永野 貴史	秦の統一過程について
早熊 修一	三国 呉の政権と江南出身の家 臣団
平田 賢一	ガンディーと不可触民
古川健太郎	魏王朝の士人たち
三原 有羽	ヴェトナム戦争と人民の戦い
山内 健嗣	中国王朝と周辺民族の関係

安宅 穂高	フランス革命期の公教育制度
李 周妍	オクタウニアヌスからアウグス トゥスへ
内海夕香里	ローマ帝国と異教 —ミトラス 教研究史から見る帝国と宗教—
梶原裕一郎	アレクサンドロス大王と東征 —東征を支えた王ファイリップス 二世—
児玉真由子	シトー修道院の成立
高木 雅美	前古典期のスバルタの二王制と エフィロイ
谷口 将也	古代アテネの教育 —プラトン とアカデメイア—
玉城 英介	力エサルの登場 —ガリア遠征 及び内乱を中心にして
永 札子	12世紀ルネサンスと中世シチリア 王国
中通浩一郎	第二次世界大戦後のフランス移 民労働者
新見祐一郎	コーヒーとヨーロッパ社会
原 知里	ローマ市民の日常生活 —食生 活と余暇—
深堀 真	英國ヴィクトリア朝時代におけ る女性使用人について

深谷 陽亮	バイキングの海外進出	めの黄金郷ー	角元 友美	とオウ
宮本 理加	古代地中海世界の交易 —古代ローマ世界の交易—	考古学・埋蔵文化財専修	朝川 華奈	長崎県原城から出土した鉛玉の産地推定
山田 勇来	オランダ東インド会社の盛衰	古代の金工技術の観察 耳環と経筒の銘文を試料として	樺村 拓男	豊前の古代寺院と古瓦—椿市廃寺を中心にして—
吉田 理恵	中世のヴァイキング社会	熊本県城南町における縄文時代の貝塚について	金子 一広	縄文時代の植物食
内田 有香	インカ帝国の統治形態における道の役割	縄文時代における土器製塩について	亀山 晃宏	中世豊後府内の成立・発展と大友氏
大西 純平	ガンディーの非暴力と可能性	巣鴨神社の研究 その信仰と災害の歴史	河野 真幸	死者に込める思い—地下式横穴墓の謎—
菊池 博文	コーヒーの歴史と経済への影響	縄光X線分析法を用いた近世絵画の顔料分析	川俣 唱子	日田盆地における古代のみち
桑原 洸太	歴史から見たラム酒の広がりと定着	伊藤 広宣 装飾古墳の現状調査	金城 恵	低湿地性遺跡の木製品から見た縄文時代の生活の様子
酒井 彩	奴隸から市長へ —社会へ進出したアメリカの黒人たち—	上田 晃史 小郡遺跡群からみた群衆についての研究 —上岩田遺跡と古代の日本との関係—	川村 祐司	沖縄東村川田の門中墓—コミニュニティーとの関係と門中
佐藤 誠一	ブルースの歴史	久保田陽香 『魏志』倭人伝と考古学	河野 真幸	『魏志』倭人伝と考古学
外赤 夏実	忘れられた帝国 —王の支配から見たヒツタイト—	工藤 昌裕 人吉・球磨地方の古墳時代—4つの墓制からみた—	太田 里美	ドウサ液の濃度差による墨の浸透度の差について
前田 陽子	土器図形からみる古代ナスカ人の豊穣感	桑島 幸平 墓葬主体や副葬遺物から見た宇土半島の古墳 —特に半島基部における古墳の展開について—	太田 真理子	島原半島における弥生時代の文化の様相—土器を中心にして—
榎本まゆみ	マヤの死生観	久保田陽香 人吉・球磨地方の古墳時代—4つの墓制からみた—	山之氏拓哉	アステカの商人と市場
森本 舞	インカ権力の検証 —ワスカルとアタワルパの事例—	桑島 幸平 墓葬主体や副葬遺物から見た宇土半島の古墳 —特に半島基部における古墳の展開について—	吉田 聰士	ゴールドラッシュ —農民のた
折出 和人	青銅器からみる弥生時代のクニ	久保田陽香 人吉・球磨地方の古墳時代—4つの墓制からみた—		

州・西四国の様相		城―	
後庵 善孝	大分平野における弥生集落の様相	野口 耕作	石田城の歴史と町並み
糸田 博明	壱岐におけるト占について	長谷川 豪	北部九州より出土した馬齋の意義について
佐藤 恵介	出雲大社	馬場 駿二	幻の島、瓜生島の検証
末野 清隆	貝塚時代における南島と九州の交流について	瀬崎 翔平	石塔が語る時代の背景とその意義
鈴木 規之	関東地方における埴輪祭祀のかたち――埴輪の種類・組み合わせからみる関東――	濱辺めぐみ	平戸オランダ商館の調査と復元
世良亮太郎	広島城とその城下町の発展について	繁田 浩子	萩城下町の町並みについて
田代 和也	縄文農耕論	樋口 彰吾	肥前国分寺跡について
津川 知大	弥生時代の遠賀川流域の石器文化とその諸問題	深江 龍哉	尖頭の出現と消滅について
中島久美子	九州地方における縄文時代の埋葬について	福浦 秋子	八代海沿岸域における装飾古墳の出現について
中園 剛史	都之城と庄内十二外城	福田 拓也	大分県の磨崖仏――磨崖仏の秘密を探る――
永田 義雄	塞ノ神式土器の編年について	藤嶋 孝史	豊後海部の首長たち――龜塚を中心として――
長瀬 武史	錦江町（大根占町）における遺跡と土器について	横尾 裕一	いわゆる安国寺式土器の成立過程について――下城式土器から安国寺式土器まで――
七枝 佳奈	城とは――グスク論争について――鹿児島県下の縄文早期における貝殻文系円筒土器	吉田瑠香也	東九州における初期古墳（国型首長墓の変遷）
西 郁香	日本の古代山城――大野城と基肄	吉野 元樹	東半島――佐賀関半島における大型首長墓の変遷
〈環境歴史学・民俗学専修〉		安里 駿	西北九州の石錘について
桃崎 光平	名護屋城の歴史と考古学――名護屋城跡の石垣の重要性――六郷満山富貴寺の研究	泉田 彬	琉球王国のグスク及びその関連遺産群
松尾 圭輔	唐津地方の古墳の動向について	宿	近代関所の研究 長崎街道矢上

井関 佑介	北九州五市合併にみる都市開発
王 華 明	中国北部沿海地域の民間信仰
大崎 彩	鹿児島県の観光における地域性 イメージ——観光パンフレット を参考にして——
大橋麻希子	橋の研究——つなぐもの境するも の——
織田 桂子	観光考古学に関する考察
砥崎 大祐	大分県における板碑の変遷と特 徴及び関東地方との比較
梶島 大穂	久留米の水天宮に関する民俗学 的特徴——水天宮の信仰や年中 行事に見る地域性——
川久保美紗	肥前陶磁史研究——焼成過程に おける燃料の問題について——
久保田寛章	遠賀川水運史の研究——特に石炭 について
小林 秀綱	消防団の実態と課題——由布市庄 内町消防団を事例に——
齋藤 準	端午の節句
朱 宣 達	建築と災害——大分の建造物に みる呪法・信仰・建築儀礼を中 心に——
末宗奈緒美	
芹川 亜弓	近世・近代における日本服飾史

高山由紀恵	律令制下における陰陽寮の役割 ——時代により移り変わり——
竹又 圭一	日本人とオオカミ——絶滅までの 関係と歴史——
伊達 勇人	庄内神楽の継承と変化——聞き 取り調査から実態を探る——
唐 晓 慶	上海都市の年中行事、娯楽活動、 礼儀民俗、宗教信仰についての 展開
同道 稔文	厳島合戦——毛利氏と大内氏を中 心に——
戸高 佑輔	沖縄の人生儀礼——沖縄の葬送儀 礼と墓制
富田 正博	世界遺産登録から見る石見銀山 書風の変遷の研究——中世を中心 に——
中島 史	
永島 実緒	狛犬と地域の関係性——熊本市を 事例として——
橋本 勝	南部藩の飢饉について——天明 の飢饉における被害と南部藩の 飢饉対策について——
松榮美菜子	別府鉄輪温泉みし湯における地 域資源性の変容
松本 純	別府八湯温泉泊観会の実態と課 題
水元 隆司	近代国家の成り立ち——諸布告 及び諸布達から読む明治初期の大 分——
宮川 洋平	八代妙見祭——妙見祭の現状と祭 の出物について

福永 祐馬 荘園と鎮守の研究——宇野御厨の  
場合——

松榮美菜子 別府鉄輪温泉みし湯における地  
域資源性の変容

松本 純 別府八湯温泉泊観会の実態と課  
題

水元 隆司 近代国家の成り立ち——諸布告  
及び諸布達から読む明治初期の大  
分——

宮川 洋平 八代妙見祭——妙見祭の現状と祭  
の出物について

宮川 洋平 八代妙見祭——妙見祭の現状と祭  
の出物について

宮川 洋平 八代妙見祭——妙見祭の現状と祭  
の出物について